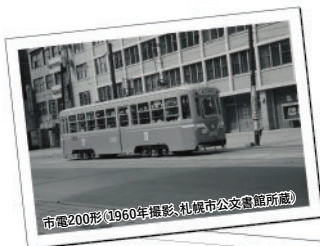


暮らしを支えてきた公共交通



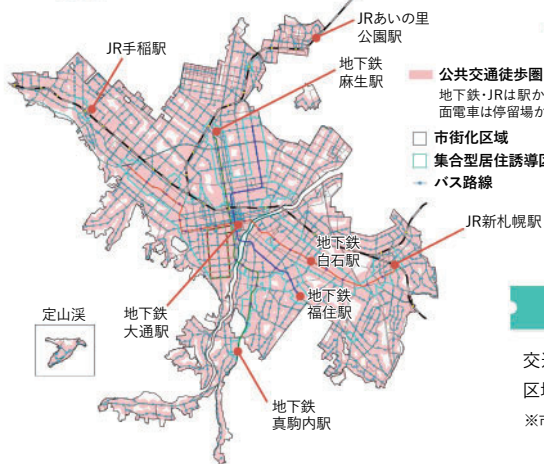
1918年に開通し、現在の北区や豊平区などに至る広い範囲を運行していた路面電車。最盛期の1964年には約25kmの路線でしたが、地下鉄の開業に伴い徐々に路線を縮小。2015年には西4丁目～すすきの間がなくなり、現在は1周約8.9kmの路線で都心での移動を支えています。



1923年には路線バスが運行を開始し、人口の増加に合わせて路線数や便数を増やしていきました。現在は市内に約2,000カ所のバス停があり、都心から郊外に至るまで札幌の幅広い範囲の移動を支えています。



1971年、オリンピックの開催に先駆けて、全国で4番目となる地下鉄南北線が開業。以降、街の発展に伴って路線の増加や延長を行い、1999年に現在と同じ全46駅になっています。



参考：札幌市立地適正化計画(平成28年3月策定)

現在は市街の90%以上を網羅

交通網の発達により、公共交通を使って市内の市街化区域*の93.2%の場所に行けるようになりました。

※市街地か、市街地にすべき区域



公共交通の未来を 考える

市内の移動を支えている地下鉄、バス、JR、路面電車、タクシー。これらの公共交通は新型コロナの影響などを受け、厳しい経営状況にあります。今回の特集では、公共交通の現状を知り、公共交通の未来を守るために私たちができることを見ていきます。

詳細 都市交通課 ☎211-2492

バスの現状

運転手の減少と高齢化が顕著に

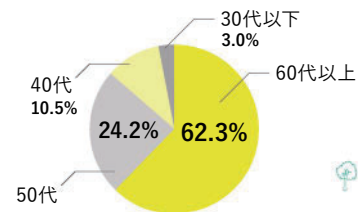
路線バスを運転するのに必要な大型自動車第二種運転免許の保有者数の減少や高齢化などにより、全国的に路線バスの運転手不足は深刻な状態です。運転手が減ると、現在の路線の維持が難しくなる一因に。実際に、全国では近年、運転手不足の影響もあり年間1,000kmほどのバス路線が廃止になっています。また、道内の大型自動車第二種運転免許の保有者数は年々減少しており、免許保有者の大半が50代以上と、高齢化が進んでいます。

■大型自動車第二種運転免許保有者数(道内)の推移

2017年
111,051人 → 2021年
99,454人

4年間で
1割以上減少

■大型自動車第二種運転免許保有者(道内)の年齢構成



参考:運転免許統計(平成29年~令和3年版、警察庁)

参考:運転免許統計(令和3年版、警察庁)

バス事業者※の声

※北海道中央バス、ジェイ・アール北海道バス、じょうてつ3社

現在苦勞している事

新型コロナが流行して以降、外出自粛や行動様式の変化によって利用者が減り、経営が苦しくなっており、車両の更新など高額の支出を抑えている状況です。運転手不足も深刻ですが、可能な限りサービスを低下させないよう、運行便数の維持のため努力しています。

道内の路線バス
運転手の平均年齢 **54.3** 歳

全産業の平均年齢…44.8歳

参考:令和3年賃金基本統計調査(厚生労働省)

安心・安全のための取り組み

車いすを使用する方や高齢の方なども利用しやすいように、車いすの取り扱いの訓練や接客に関する研修を行うなど、誰もが安心して乗ることができるよう心掛けています。通勤や通学はもとより、お買い物などの日常生活の移動手段として、今後もぜひ利用していただきたいです。



▲車内の消毒など、感染症対策も徹底

公共交通を取り巻く現状

通勤や通学はもちろん、子どもから高齢の方まで、多くの人の移動を支えている公共交通。高齢者世帯の増加による免許返納や、環境への配慮などを背景に、誰もが利用できる公共交通の重要性は、今後さらに高まっていくことが予想されます。しかし、利用者数の減少などにより、公共交通の現状は厳しい状況です。



公共交通の利用者数

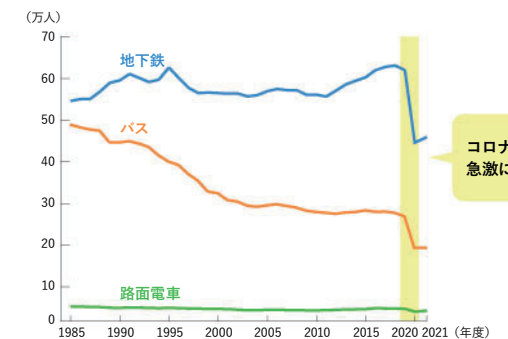
コロナ禍で利用者数が減少

市内の公共交通の利用者数は、新型コロナの感染拡大による外出抑制などの理由で、2020年度に大きく減少。2021年度にはやや回復しましたが、生活スタイルの変化や人口減少の影響などもあり、以前の水準に戻ることは難しいともいわれています。

利用者数が減り続けると…

公共交通の利用者数の減少は、乗車料収入が減って、現在のサービス水準の維持が難しくなる要因の一つに。全国では、サービス水準の低下がさらなる利用者数の減少へとつながってしまっている例もあります。

■地下鉄、バス、路面電車の1日当たりの平均利用者数推移

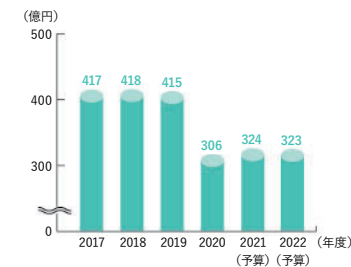


参考:札幌の都市交通データブック2021、統計さっぽろ(月報)令和4年8月号

地下鉄の現状

2020年度~2022年度の地下鉄の乗車料収入は、新型コロナ流行前の2019年度と比べて20%を超える減収に。3年間で約300億円の減収を見込んでおり、厳しい経営状況になっています。

■乗車料収入の推移



路面電車の現状

路面電車を維持するための修繕・保守や、老朽化対策にかかる費用に加えて、コロナ禍で路面電車の利用者数が減少したことの影響により乗車料収入が減少するなど、厳しい経営状況になっています。



公共交通の良いところを見直してみよう

二酸化炭素の排出が少なく環境に優しい

1人が1km移動する時の二酸化炭素の排出量は、バスは自家用車の約83%、鉄道は約21%です。

参考：国土交通省ホームページ「輸送量当たりの二酸化炭素の排出量（旅客）」。2020年度のデータ



良い運動になる・移動時間を活用できる

公共交通を利用する際には、自宅から駅までや乗り換えなどで歩く機会が増え、自然と健康増進につながります。また、乗車中は読書など自分の好きな事ができ、時間を有効活用できます。

道路の渋滞緩和に

札幌の地下鉄東西線7両編成の定員は910人、路面電車の定員は60人～70人と、公共交通の利用で一度に多くの人が移動できます。道路を走る自動車の数が減ると、朝の通勤時間などで渋滞が緩和されます。



お財布に優しい

自動車で出かけると、ガソリン代のほか、駐車料金が必要な場合も。公共交通は運賃のみを支払えばよいので、お出かけなどで公共交通を使い、自動車を使う回数を少なくすれば節約になる場合もあります。

便利でお得に公共交通に乗ろう

えきバスナビを活用

スマートフォンやパソコンから目的地への経路や時刻表などが調べられるほか、バスの現在の位置や遅れの情報などが分かる便利な機能も付いています。



お得な切符も販売中

地下鉄、路面電車
お得な1日乗車券を販売中。土・日曜、祝・休日は「ドニチカキップ」や「どサンこパス」でさらにお得に。

路線バス

1日乗車券のほか、施設の利用券やお買い物券がセットになったお得なパックもあります。



公共交通を未来へ

公共交通は利用者や運転手の減少などにより、厳しい状況に置かれています。公共交通は学生や高齢の方にとって不可欠だけではなく、今はあまり利用していないという方も、いつか必要となる時が来るかもしれません。未来も便利な公共交通であり続けるために、公共交通のことを改めて考え、お出かけなどの際に積極的に利用しませんか。

公共交通を未来に残すために

市では、持続可能な公共交通の在り方を検討していきます。また、私たち一人一人が公共交通の良さに目を向け、より多くの方が積極的に利用することも、未来に公共交通を残すことにつながります。

持続可能な公共交通に向けて

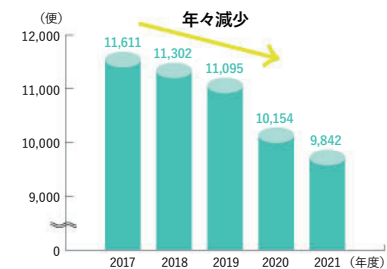
特に路線バスの維持が課題

市では、赤字のバス路線に対して補助金を出して支援していますが、収支の悪化や運転手不足などの課題の根本的な解消には至っていません。そのため、路線や便数を維持することは年々難しくなっています。

市民の足をみんなで支える

市と交通事業者、利用者が現状を理解し、共に支え合うために、それぞれの役割を果たしながら協力していくことが必要です。今後、市では地域ごとの特性に応じた持続可能な公共交通ネットワークを確立する方法を検討するなど、市民生活に必要な不可欠な公共交通の維持に向けた取り組みを進めていきます。

■市内路線バスの1日当たりの便数



参考：札幌の都市交通データブック2017～2021

新たな取り組み 「デマンド交通」

市では、民間事業者によるバス路線の維持が困難になった手稲区富丘高台線の周辺地域で、11/21(月)から路線バスに替わる交通手段として「デマンド交通」の実証実験を開始する予定です。利用実態や地域課題に合わせた新たな取り組みとして、対象地域内に複数の乗降場所を設定し、予約状況に応じて乗合で運行します。

利用イメージ

- ①電話かインターネットで、日時、乗降場所、人数を事前予約 ⇒ ②予約した乗降場所で乗車



▲乗降場所の目印 (イメージ)



▲使用予定の車両(定員8人)